

大久保市長×西川貴教さん 特別対談が行われました！



西川貴教さん (滋賀ふるさと観光大使)
ディームレボリューション
滋賀県出身。1996年にT.M.Revolutionとしてデビュー。歌手、アーティストとして多方面で活躍している。初代「滋賀ふるさと観光大使」に任命され、地域の活性化を掲げた「イナズマロックフェス」を、毎年草津市で開催している。

今年の3月、彦根・北びわこ大花火大会の開催について、西川さんがツイッターにメッセージを投稿し、話題となりました。この度、7月に市長と西川さんとの特別対談が実現。対談では、ツイッターの投稿に込められた思いや、彦根市や滋賀県のこれからのこと、彦根での幼少時代の話なども伺うことができました。今回、この対談の内容をご紹介します。
問い合わせ先 県観光企画課 ☎30-6120、FAX24-9676

イベント開催に関する運営上の問題についても、我々はきちんと考えていかなければならないと思っています。(西川さん)



市長 年々イベントがバージョンアップし、参加する側のニーズが変わってきている今、考えなければならぬ課題がたくさんあります。
西川 イベント開催に関する問題は、滋賀だけじゃなく、他府県でも起こっていると思うんです。少子高齢化もあり、今まで地域で支えられていたお祭りや花火大会などへの協力もどんどん厳しい状況になっています。花火大会は日本中たくさんありますが、莫大な運営経費のほとんどが、交通整備や安全の問題に費やされて財政を圧迫し、本当に使うべきところに使えなくなってきたようなところもあります。こういった問題も、我々はきちんと考えていかなければならないと思います。

僕は毎年恒例で、琵琶湖一斉清掃に参加しているのですが、清掃に参加しているのは高齢の方ばかりです。若い人たちが、未来を担う子どもたちにきちんとつけていく、こういうことを、具体的に地域の皆さんと僕たちと一緒に考えて、何か新しいスタートを切るきっかけができればいいですし、それが滋賀や他の地域の皆さんにもどんどん広がってほしいなと思っています。
市長 ところで、西川さんは彦根出身のことですが、何か当時の思い出はありますか？
西川 祖父は豊郷の派出所に勤めていました。母は市内の病院に勤めていて、僕はその病院で生まれました。
市長 何歳まで彦根におられたのですか？
西川 幼稚園に入る前に彦根から野洲に引っ越したので、4歳頃でしょうか。その頃の写真が残っているんですけどね。今回、こうして、ただ懐かしただけでなく、何か地域の皆さんに貢献できる、そのきっかけをいただいで彦根に帰ってこられたことが、本当に嬉しいです。また、改めてよろしく申し上げます。
市長 こちらこそ、これからもよろしく申し上げます。本日は、本当にありがとうございました。

僕自身も彦根の出身ということもあり、少しでも、地域の皆様に関わる貢献を何か形にできれば、という思いでした。(西川さん)

市長 西川さん、ようこそお越しいただきました。ご心配いただきました花火大会ですが、いろんな課題はあるにせよ、今年は日程を変更して開催できることになりました。こうしたきっかけを与えてくださった西川さんに、敬意と感謝を申し上げます。
西川 まず、この度はこういった対談の機会を設けていただき、本当にありがとうございます。(ツイッターの投稿については)僕自身も彦根の出身ということもあり、少しでも、地域の皆様に関わる貢献を何か形にできれば、という思いでした。



市長 西川さんは、県のふるさと観光大使を務められ、ご活躍ですが、彦根の観光についてはどう思われますか？
西川 彦根城の存在はやはり大きいと思います。映画の撮影などに使われることも多いですし、観光の拠点になっているのではないのでしょうか。また、魅力ある都市の良さをどんどんPRしていくという活動の中で、ひこちゃんの貢献も素晴らしいと思います。
滋賀は琵琶湖が真ん中であって、その周りを囲むように皆が住んでいます。琵琶湖の良さをいろんな角度から見てもらいたいと思っています。一年を通じて、季節に合わせて、琵琶湖の良さ、人々の暮らしが、滋賀の魅力をもっともっと皆さんに広げていきたいです。

